International Ukiyo-e Society
30th Fall Conference

国際浮世絵学会

第30回

秋季大会

2025年11月22日（土）

会 場
神奈川大学みなとみらいキャンパス
米田吉盛記念講堂（横浜市西区みなとみらい4-5-3）
および Zoomによるオンライン

主催／国際浮世絵学会

第30回国際浮世絵学会秋季大会によせて

国際浮世絵学会会長・大和文華館・あべのハルカス美術館
浅野　秀剛
President of IUS., Museum Yamato Bunkakan, Abeno Harukas Art Museum
Shūgō ASANO

今年は６月下旬から猛暑が続き、９月になっても収まる気配がありません。未来の地球を思うと暗然たる気持ちになるのは私だけではないでしょう。ただ、浮世絵を取り巻く状況は、NHK の大河ドラマ「べらぼう」のおかげで全国的に妙な盛り上がりをみせ、浮世絵専門館はもとより、普段はあまり縁のない美術館・博物館まで、浮世絵展、しかも、寛政期を中心とした展覧会が開催されているのは喜ばしいことと思います。近年、浮世絵の流通と研究の主体が19 世紀に移行した状況を認識している私としては、17、18 世紀の浮世絵も引き続き興味を持たれることは当然とはいえ、ホッとしているというのが正直な気持ちです。

今年の秋季大会も､昨年と同様にハイフレックスによる開催となります。パンデミック以来、秋季大会が１日になったのは少し残念な気もしますが、ハイフレックスが定着し、参加者の総数が増えたことは重要なことであり、今後も継続されることを願っています。

今年の特別講演は、大英博物館のアルフレッド・ハフト氏に、同館で開催された「広重展」についてお話しいただきます。その展覧会は、今年の春から秋口にかけて４か月間開催され、想定を超える多くの来場者があり大変好評だったと聞いています。私は残念ながら拝見することができなかったので、展観の様子をうかがえるのを楽しみにしています。

シンポジウムのテーマは「浮世絵と版元」です。浮世絵版画の版元が正面から取り上げられることはほとんどなかったので、浮世絵版画の版権に関心のある身としてはどのようなことが議論されるのか大変期待しております。

神奈川大学での秋季大会は３年連続となります。大会開催のためにご尽力いただく藤澤茜国際委員長をはじめとする国際委員会の皆様、会場館の神奈川大学の皆様に厚く御礼申し上げます。

第30回国際浮世絵学会秋季大会によせて

国際浮世絵学会理事長・町田市立国際版画美術館・すみだ北斎美術館
大久保　純一
Chair of the Board of IUS., Machida City Museum of Graphic Arts, The Sumida Hokusai Museum
Jun'ichi ŌKUBO

今年はNHKの大河ドラマの影響で、例年になく浮世絵に関する関心が高まっています。しかも、絵師だけではなく、版元の果たした役割にまで人々の興味が向いていることが従来とは異なるところで、浮世絵に対する理解も多面的かつ重層的になってきたように感じられます。今大会のシンポジウムのテーマが「浮世絵と版元」となっていることも、そうした時流をタイムリーにとらえたものといえるでしょう。展覧会や出版の分野で、浮世絵と版元に関するお仕事に関わっておられるパネリストの方々による議論の広がりと深まりが楽しみですが、これをきっかけにより多くの浮世絵ファンが学会に加入してくだされば との期待もあります。

ところで、私事になりますが、当学会の理事長を拝命して６年目の秋を迎え、もうすぐ２期目の任期を終えることとなりました。就任直後に新型コロナによるパンデミックがあり、総会や大会中止、オンライン開催、ハイフレックスの導入など、新たな対応に右往左往する６年間でしたが、各委員会や事務局の皆様の奮闘で、なんとか無事任期を全うすることができそうです。さまざまな局面で学会の運営にご協力いただいた会員の皆様も含め、少し気が早いですがこの場を借りて御礼申し上げます。

文末ではありますが、今回も会場の確保にお骨折りいただいた藤澤茜国際委員長、大会開催に向けてご尽力いただいた国際委員各位および事務局のみなさまに心から御礼申し上げます。

国際浮世絵学会
INTERNATIONAL UKIYO-E SOCIETY

第30回　国際浮世絵学会 秋季大会

日時：2025年11月22日（土）
会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス4階米田吉盛記念講堂（横浜市西区みなとみらい4-5-3）
およびZoomによるオンライン

※大会の参加方法や参加費については、本冊子の【秋季大会　参加方法】をご覧ください。

タイムテーブル

総合司会：藤澤 茜（国際委員会委員長・神奈川大学）

10：30　開会の辞　**浅野 秀剛**（国際浮世絵学会会長・大和文華館・あべのハルカス美術館）
理事長挨拶　**大久保 純一**（国際浮世絵学会理事長・町田市立国際版画美術館・すみだ北斎美術館）

10：45　研究発表　**司会：小林 ふみ子**（法政大学）
「大坂絵本流行萌芽期における動向―＜絵本＞を冠する書名の増加をめぐって―」
古明地 樹（香川高等専門学校）

11：25　休憩

13：00　臨時総会

13：45　シンポジウム「浮世絵と版元」　**司会：渡邉 晃**（国際委員会副委員長・太田記念美術館）
発表：田辺 昌子（元千葉市美術館副館長）**「蔦重と日本橋の老舗版元たち」**
赤木 美智（太田記念美術館）**「浮世絵風景画と版元―西村屋与八と竹内孫八」**
奥田 敦子（すみだ北斎美術館）**「北斎と版元たち」**
北川 博子（甲南女子大学）**「大坂における歌舞伎関連出版物の版権について」**

16：30　休憩

16：45　特別講演　**司会：長井 裕子**（茂木本家美術館）
「広重―旅の画家」
アルフレッド・ハフト（大英博物館）

17：45　閉会の辞　**藤澤 茜**

18：00　懇親会　**司会：岡崎 礼奈**（東洋文庫）
西田 亜未（たばこと塩の博物館）
会場　VOYAGE（神奈川大学みなとみらいキャンパス1F）

表紙画像（すべて太田記念美術館所蔵）
喜多川歌麿「婦女人相十品　文読む女」
東洲斎写楽「市川鰕蔵の竹村定之進」
葛飾北斎「冨嶽三十六景　神奈川沖浪裏」

International Ukiyo-e Society 30th Fall Conference

Saturday, November 22, 2025, at 4th Floor, Yoneda Yoshimori Memorial Auditorium, Minato Mirai Campus, Kanagawa University（4-5-3 Minatomirai, Nishi-ku, Yokohama-shi）

HyFlex

*For information regarding the participation procedure and the conference participation fee, please refer to the section "秋季大会 参加方法" in this booklet.

General Chair: **Akane FUJISAWA**（Chair of the International Committee, Kanagawa University）

10：30 **Opening Addresses**
Shūgō ASANO（President of IUS., Museum Yamato Bunkakan, Abeno Harukas Art Museum）
Jun'ichi ŌKUBO
（Chair of the Board of IUS., Machida City Museum of Graphic Arts, The Sumida Hokusai Museum）

Presentation Moderator: **Fumiko KOBAYASHI**（Hosei University）
10：45 **Tatsuki KOMEIJI**（National Institute of Technology, Kagawa College）
"Trends in the Early Period of Ehon Publishing in Osaka: Increase in the Number of Publications with the Term 'Ehon' in Their Titles"

11：25 **Lunch Break**

13：00 **Extraordinary General Meeting**

13：45 **Symposium** "Ukiyo-e and Publishers"
Coordinator: **Akira WATANABE**
（Vice Chair of the International Committee, Ōta Memorial Museum of Art）
Presenters:
Masako TANABE（Former Deputy Director of the Chiba City Museum of Art）
"Tsutaya Jūzaburō and Long-Established Publishers in Nihonbashi"
Michi AKAGI（Ōta Memorial Museum of Art）
"Publishers of Landscape Prints: Nishimuraya Yohachi and Takenouchi Magohachi"
Atsuko OKUDA（The Sumida Hokusai Museum）
"Hokusai and The Publishers"
Hiroko KITAGAWA（Konan Women's University）
"Publishing Rights of Kabuki-related Publications in Osaka"

16：30 **Break**

16：45 **Special Lecture** Moderator: **Hiroko NAGAI**（Mogi Honke Museum of Art）
Alfred HAFT（The British Museum）
"Hiroshige: Artist of the Open Road"

17：45 **Closing Remarks**
Akane FUJISAWA

18：00 **Reception**
Moderator: **Rena OKAZAKI**（Toyo Bunko）, **Ami NISHIDA**（Tobacco & Salt Museum）
（Venue: Restaurant VOYAGE, Minato Mirai Campus, Kanagawa University）

第30回　国際浮世絵学会　秋季大会　参加方法

第30回秋季大会は、神奈川大学みなとみらいキャンパスで開催をいたします。あわせてZoomを使ったオンラインでも配信いたします。

みなとみらいキャンパスへは一般の方も参加が可能ですが、オンラインでの参加は国際浮世絵学会会員限定とさせていただきます。パソコンやスマートフォン等のインターネット環境をあらかじめご準備ください。

■会場参加方法

当日は本冊子と会員証をご持参ください。マスクのご着用は任意です。また、体調のすぐれない方のご参加はご遠慮ください。

当日資料代は会員無料、一般1000円、学生500円です。

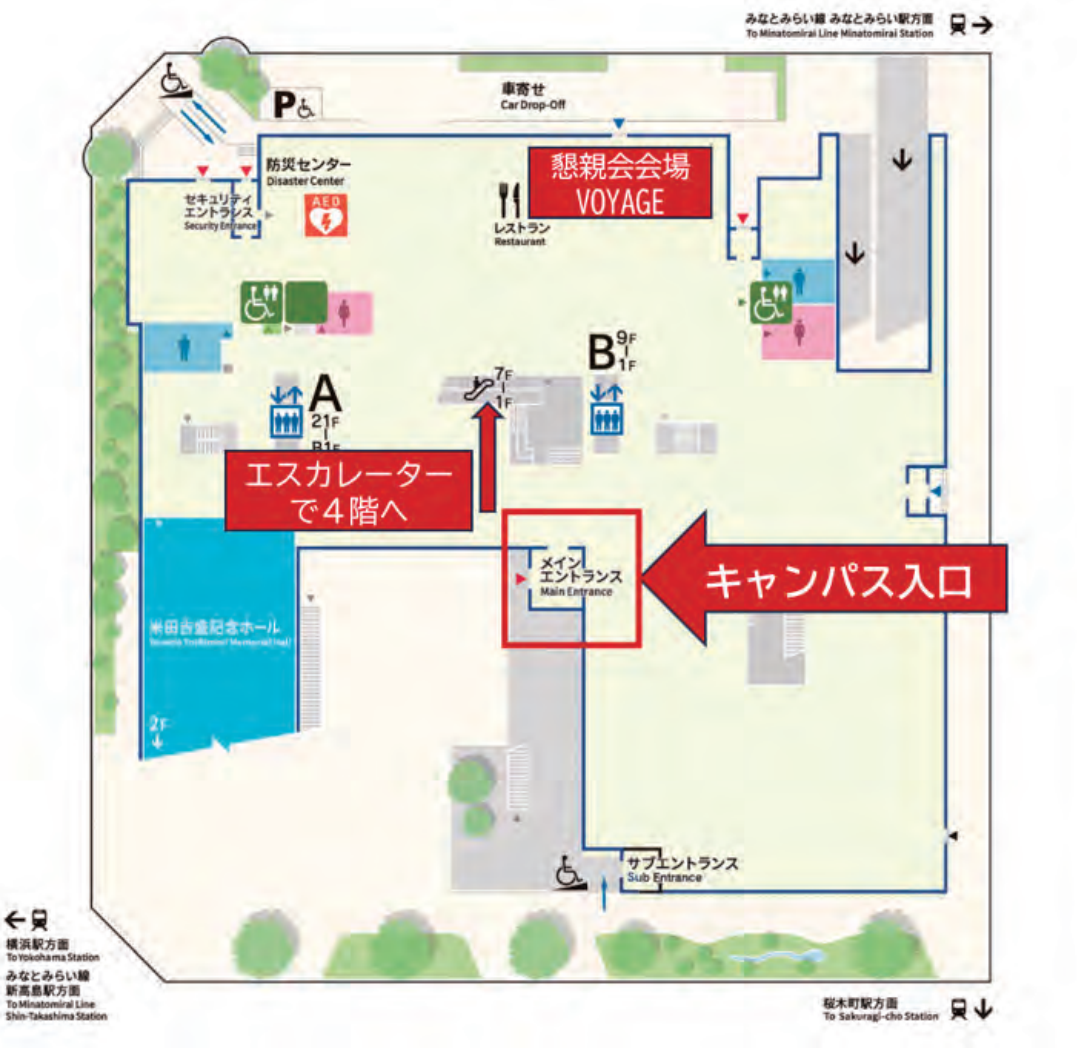
■会場案内

神奈川大学みなとみらいキャンパス　４階米田吉盛記念講堂

- みなとみらい線「みなとみらい駅」下車徒歩約６分
- みなとみらい線「新高島駅」下車徒歩約４分
- JR・東急東横線・京浜急行・相鉄本線・横浜市営地下鉄「横浜駅」下車徒歩約11分
- JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車徒歩約12分

■会場での飲食について

会場となる米田義盛記念講堂では、飲食可となっております。飲み物に関しては、ペットボトル、もしくは蓋つきの飲み物のみ持込むことができます。なお、昼食は1階レストランVOYAGE（懇親会会場）をご利用いただくことも可能です。



■オンライン参加について

事前申込みは不要です。当日、下記のミーティングID、パスコードを入力しご参加ください。メールアドレスを登録されている会員には、事前にURLを送信しますので直接アクセスください。

なお、オンライン参加の場合、発表資料は当日、Zoomのチャット欄での配信となります。

■オンライン参加の手順

・Zoomを起動し「ミーティングに参加」をクリック。お名前はフルネームで表記してください。
・ミーティングIDに下記の数字を入れ、「参加」をクリック。
　　ミーティングID：860 1849 9261
・パスコードに下記の数字を入れてください。
　　パスコード：161259
・11月22日（土）10：20よりZoomにアクセスが可能です。
　注意）オンラインでの参加は会員限定です。上記のID、パスコードは会員以外には決してお知らせしないようお願いします。

大坂絵本流行萌芽期における動向
― 〈絵本〉を冠する書名の増加をめぐって ―

Trends in the Early Period of Ehon Publishing in Osaka: Increase in the Number of Publications with the Term 'Ehon' in Their Titles

香川高等専門学校　**古明地　樹**
National Institute of Technology, Kagawa College　**Tatsuki KOMEIJI**

本発表では、貞享期から享保期に至る絵本の変遷について、書名における「絵本」の語を軸に考察する。これにより、享保期の上方で「絵本」を冠した作品が急増する背景を明らかにし、近世絵本史の解明に資することを目指す。

享保期の上方では、「絵本（画本）」の語を冠する作品が相次いで出版された。橘守国や大岡春卜ら狩野派絵師による絵本や、西川祐信の風俗絵本は、書名に「絵本」の語を用いて制作され、後の近世絵本に大いに影響する絵本の形式を確立した。では、その萌芽期には何が起きていたのか。本発表では、書名に「絵本」を冠した版本の出版について取り上げ、その初期の動向について、大坂の事例を中心に考察する。

書名に「絵本」を冠する早い例として、貞享５年（1688）序『絵本宝鑑』や、同年刊の『絵本忘草』が確認され、角書的な「絵本」の用例が認められる。これらの事例は、菱川師宣や大森善清らによる、書名に「絵本」を用いない作品群と享保期絵本を繋ぐ事例と言える。

この過渡期の絵本には、複合的な内容を有するものが多い。例えば上記の『絵本忘草』は、和歌と絵の手本を同時に掲載し、取り上げる画題も多様である。これらに対し、享保絵本流行の萌芽期には、求版に伴う分類・整理が行われた。複合的な内容の『絵本忘草』からは和歌が削除され、同時に画題分類に応じた抄録改題が行われる。これにより、『絵本忘草』は絵本としての機能が単純化され、画題ごとに『絵本忘草』『絵本ふくらすゝめ』の２作品へ綴り分けられた。同様の現象は複数の作品に認められ、結果的に、絵本の様式形成と「絵本」の名を冠する作品の増加に繋がった。

守国や春卜に代表される享保期の大坂における絵本流行は、後の絵手本・画譜の在り方に大いに影響した。それらに先んじて、和歌や画論等を除外し、絵手本・画譜としての機能を先鋭化させる動きが認められることは、近世絵本史において注目すべき点であろう。

浮世絵と版元

Ukiyo-e and Publishers

太田記念美術館
Ōta Memorial Museum of Art
渡邉　晃（司会）
Akira WATANABE（Coordinator）

今年は、NHK 大河ドラマの影響もあり、蔦屋重三郎（以下、蔦重）と浮世絵の版元に関わる展覧会が各地で開催され、大きな潮流となっている。絵師ではなく版元という存在に、これほどまでに世間の注目が集まったことは、これまでに例がないのではなかろうか。また学術的にも、浮世絵の版元研究は従来、特に蔦重を中心として考察が積み上げられてきた印象を受けるが、最近のこの流れの中で、他の多様な版元にも改めて関心が向けられつつあることは、きわめて重要な動向と言えよう。

蔦重と歌麿・写楽の関係を例に挙げるまでもなく、版元が浮世絵出版の企画そのものに大きな影響を与えていたことは広く知られているが、昨今の研究では、たとえば西村屋与八（以下、西与）など他の版元についても、個別に浮世絵出版の流れを捉え直す試みがあり、様式史に基づく方法論では、これまで絵師個人に帰せられてきた画題や様式の変遷も、実際には版元の企図や嗜好の影響が大きいのではないかとする事例も新たに見出されている。今後、版元を軸とした研究が継続的に進められることで、新たな研究領域の展開が期待されるだろう。

本シンポジウムでは、浮世絵と版元について、さまざまな視点から発表とディスカッションを行う。まず田辺昌子氏には、蔦重と日本橋周辺の版元による出版活動について、狭い地域内で形成された版元同士のコミュニティや、吉原出身という異色の経歴を持つ蔦重の存在感に着目してご発表いただく。赤木美智氏には、葛飾北斎「冨嶽三十六景」を出版した西与と、歌川広重「（保永堂版）東海道五拾三次之内」の竹内孫八という、浮世絵を代表する風景画の揃物を近い時期に世に送り出しながら、全く異なる歴史と特色を持つ両版元についてお話しいただく。奥田敦子氏には、長い画歴を持つ葛飾北斎という絵師の視点から、蔦重、西与、永楽屋東四郎といった版元たちがどのように制作や出版に関わったのかについてご発表いただく。北川博子氏には、大坂における浮世絵出版について、近年注目を集める「版権」をキーワードに、本屋と草紙屋による錦絵出版をめぐる攻防の流れを、作品と史料をもとにご紹介いただく。

版元を軸とした浮世絵出版の動向、絵師を軸とした版元との協業の実態、そして大坂の錦絵出版事情と版権という多角的な視点からの発表を踏まえ、ディスカッションでは「浮世絵と版元」という大きなテーマについて自由な議論を交わすことで、今後の浮世絵研究においても意義のある、新たな視点を提示できれば幸いである。

蔦重と日本橋の老舗版元たち

Tsutaya Jūzaburō and Long-Established Publishers in Nihonbashi

元千葉市美術館副館長　**田辺　昌子**
Former Deputy Director of the Chiba City Museum of Art　**Masako TANABE**

大河ドラマ「べらぼう」をきっかけに意識されたことの一つは、天明３年（1783）９月、生まれ育った吉原から、老舗版元のひしめく日本橋通油町に進出した蔦屋重三郎（蔦重）が、いかに異端な存在であったかということである。ドラマにおいても日本橋の地本問屋仲間に蔦重が対立するように描かれていたが、創作とはいえ、「それはそうであったかもしれない」と思わせるところがあった。

大伝馬町三丁目の鱗形屋や、京から江戸に進出した同所（貞享期までには通油町に移転）の鶴屋喜右衛門は、浮世絵草創期の菱川師宣の名を広めた中心的版元であった。また馬喰町の西村屋与八は、明和期（1764-72）の錦絵創始期に鈴木春信（1725?-70）の作品を手がけたことが確認される数少ない版元の一つである。他にも重要な版元が集中する日本橋において、どのような版元同士のコミュニティがあり、棲み分けがあり、その中で吉原者の蔦重が存在感を示すことができたのはなぜなのか。寛政期（1789-1801）の錦絵出版を中心に考えてみたい。

喜多川歌麿「娘日時計　辰ノ刻」（太田記念美術館蔵）

浮世絵風景画と版元
― 西村屋与八と竹内孫八

Publishers of Landscape Prints: Nishimuraya Yohachi and Takenouchi Magohachi

太田記念美術館　**赤木　美智**
Ōta Memorial Museum of Art　**Michi AKAGI**

文政（1818-30）末から天保（1830-44）前期にかけて２つの風景画の名作、葛飾北斎《冨嶽三十六景》と歌川広重《東海道五拾三之内》が相次いで世に出た。ただし版元は、前者が老舗の西村屋与八（三代目）、後者は天保３年（1832）頃に創業したばかりの竹内孫八（一部は鶴屋喜右衛門と相版）と、その規模や性格は大きく異なる。

西村屋は北斎以前にも宝暦期（1751-64）の鳥居清満、安永 - 天明期（1764-89）の歌川豊春、文化期（1818-30）の昇亭北寿と、代々が重要な風景画を手がけている。また本報告では宝暦期から天明期（1781-89）にかけてしばしば浮絵で「元祖」を自称し、「風景画の版元」としての地位を主張していたことにも注目する。

竹内孫八は、挿絵を担当した四方側の狂歌絵本『俳諧歌六々画像集』（天保２年［1831］頃）、『俳諧歌彼賀古登集』（天保３年［1832］12 月序）や初期出版物を検討すると、創業時に四方滝水ら狂歌師の助力があったと推定される。両者の版元としての性格の違いを探りつつ、両作品の意義についても考えたい。

歌川広重「東海道五拾三次之内　庄野　白雨」（太田記念美術館蔵）

北斎と版元たち

Hokusai and The Publishers

すみだ北斎美術館　**奥田　敦子**
The Sumida Hokusai Museum　**Atsuko OKUDA**

葛飾北斎は、勝川春章に入門後、黄表紙や役者絵、浮絵等を発表するが、数え35歳頃に同流派を離れ、江戸琳派の一派の頭領・俵屋宗理となる。その間は錦絵等の一般的な流通作品は減り、入銀を主体とする摺物・狂歌絵本の挿絵が中心となる。しかし4年後には宗理号も門人に譲り、以降は他派に属さず、読本挿絵や絵手本の版行、「冨嶽三十六景」をはじめとする錦絵のシリーズものを発表していく。このように北斎は環境等の変化とともに画風や力を注ぐジャンルも変わっているため、時々の状況に合わせて版元との関係性も変わっていったと考えられる。

本報告では、北斎の画業全体を概観し、北斎初期作における版元との関わりから、近年注目される蔦屋重三郎、「冨嶽三十六景」を出版した西村屋与八、『北斎漫画』の版元・永楽屋東四郎と角丸屋甚助との関係性にも言及し、北斎が自身を取り巻く状況の変化の中で、どのように版元たちと関わりを持ち、自らの制作を進めたのか、版元側の事情とともに考えてみたい。

葛飾北斎「仁和嘉狂言　三月　花すもう」（すみだ北斎美術館蔵）

大坂における歌舞伎関連出版物の版権について

Publishing Rights of Kabuki-related Publications in Osaka

甲南女子大学　北川　博子
Konan Women's University　Hiroko KITAGAWA

近年、浅野秀剛氏は、江戸における浮世絵版画の版権についての研究を進めている（「浮世絵版画の版権―風景画と花鳥画―」2024 年、『大和文華』第 146 号）。氏は史料がない江戸とは異なり、大坂では版権主張の史料があることを、拙著『上方歌舞伎と浮世絵』（2011 年、清文堂出版刊）を挙げて示された。

江戸では書物問屋と地本問屋の区別が、大坂では大まかに本屋と草紙屋の区別があった。本来、錦絵は草紙屋の範疇のはずが、本屋仲間に所属する塩屋長兵衛が版権を主張し、四半世紀以上の独占状態となった。しかし、草紙屋たちの反撃により独占が崩壊し、多くの草紙屋が錦絵版行に参入する。大坂では、こうした状況が史料で追えるのである。本発表では、『大坂本屋仲間記録』の記録と、実際の役者絵や歌舞伎関連の絵入版本、絵尽しなどの版行状況を照らし合わせ、その実態を明らかにしたい。さらに、大坂では天保の改革後に判型が大判から中判になる状況についても、「版権」という視点で述べていきたい。

有楽斎長秀「姫小松子日の遊」（たばこと塩の博物館蔵）

広重 ― 旅の画家

大英博物館
アルフレッド・ハフト

歌川広重（1797–1858）は下級武士という生まれから、最も才能豊かで多作、かつ成功した日本の芸術家の一人へと登りつめた。彼は数十冊の絵入り本、数百点の肉筆画、数千点の版画を通じて社会のあらゆる階層の人々に評価された。彼の遺した作品は今もなお現代の鑑賞者や芸術家たちに語りかけている。

広重が生きたのは江戸時代後期の不安定な時代であったが、その作品には動乱の痕跡は見られない。広重は、生々しい現実や誇張された幻想の代わりに静かで楽観的な理想の世界を表現し、生涯を通してその世界観を貫き通した。それにより当時の人々にも現代の人々にも広く受け入れられる作品が生み出されたのである。

本講演では、今年行われた大英博物館での展覧会に基づき、広重の作品の三つの分野―風景画、鳥花図、団扇絵―について考察する。そして、広重の意図したことや、彼の作品が世界中の鑑賞者や芸術家のニーズに応え続けている理由を探りたい。

〈略歴〉

大英博物館アジア部日本セクション学芸員。専門は、浮世絵および江戸の庶民文化の研究。主な著作に『広重　旅の画家』（2025年）、「自然を写す」矢野明子編『日本のサロン文化―美を生む空間』（2024年）所収、「北斎の小布施滞在」ティモシー・クラーク編『後期の北斎―社会、思想、技術、レガシー』（2023年）所収、「北斎と江戸後期の社会」ティモシー・クラーク編『北斎―グレート・ウェーブを超えて』（2017年）所収、「性生活を肯定する―吉田半兵衛の『好色訓蒙図彙』（貞享三年）を読む」アンドリュー・ガーストル、ティモシー・クラーク編『ジャパン・レビュー』26号（2013年）、『浮世の美的戦略』（2012年）。

Hiroshige: Artist of the Open Road

The British Museum　**Alfred HAFT**

Utagawa Hiroshige (1797–1858) rose from humble samurai beginnings to become one of Japan's most talented, prolific and successful artists. Through dozens of illustrated books, hundreds of paintings and thousands of prints, he found appreciative audiences at all levels of society, and his legacy still speaks to viewers and artists today.

He lived during the last decades of the Edo period (1615–1868), an unsettled time, but his work shows no sign of turmoil. Instead of gritty realities and exaggerated fantasies, he conveyed a quietly optimistic vision of his world as it might be, and he remained committed to that vision throughout his career, making it widely accessible to people of his time and of ours.

This presentation, based on the exhibition held earlier this year at the British Museum, will look at three areas of Hiroshige's work: landscapes, bird-and-flower prints and fan prints. It will consider the artist's aims, and how his pictures continue to serve the needs of viewers and artists around the world.

〈SHORT BIOGRAPHY〉

Alfred Haft (PhD), curator, Japan section, department of Asia, the British Museum, specializes in the study of ukiyo-e and other aspects of Edo popular culture. His publications include *Hiroshige: Artist of the Open Road* (2025); 'Capturing Nature', in Akiko Yano, ed., *Salon culture in Japan: making art, 1750–1900* (2024); 'Hokusai in Obuse', in Timothy Clark, ed., *Late Hokusai: Society, Thought, Technique, Legacy* (2023); 'Hokusai and Late Tokugawa Society', in Timothy Clark, ed., *Hokusai: beyond the Great Wave* (2017); 'Affirming the Life Erotic: Yoshida Hanbei's *Kōshoku kinmō zui* (1686)', *Japan Review* 26, ed. C. Andrew Gerstle and Timothy Clark (2013); and *Aesthetic Strategies of the Floating World* (2012).

第30回　国際浮世絵学会　秋季大会　協賛

国際浮世絵学会　秋季大会開催に際し、次の方々から寄付と協賛を賜りました。
記して深く感謝いたしますとともに、心より御礼申し上げます。

（2025 年 10 月 3 日現在　五十音順　敬称略）

浅野　秀剛

一心みずい版画（水井　みつ子）

株式会社 江戸文物研究所（内村　修一）

大久保　純一

（有）大屋書房（纐纈　くり）

河合　正朝

公文教育研究会

五拾画廊株式会社（土屋　雅人）

小林　忠

佐々木　昭美

中外産業株式会社

公益財団法人　摘水軒記念文化振興財団（寺嶋　哲生）

東京浮世絵会（御成会）

東間　勝彦

（株）原書房（原　秀昇・原　敏之）

原田　英利

株式会社藤アート（伊藤　雅章）

株式会社 マツミサロン（塚原　雄太）

株式会社繭山龍泉堂

三田アート画廊株式会社（Ken Caplan）

安村　敏信

山口　桂

株式会社渡邊木版美術画舗（渡邊　章一郎）

匿名　1名

原書房

浮世絵版画 和本 浮世絵関係書

101-0051
東京都千代田区神田神保町2-3
Tel 03 5212 7801
Fax 03 3230 1158
Mail ukiyoe@harashobo.com

HARA SHOBŌ
TOKYO JAPAN
www.harashobo.com
harashobo

小倉柳村 (OGURA RYUSON)
浅草寺 明治14年
Sensoji Temple, 1881

2-3 Kanda Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051 Japan
Tel +81 3 5212 7801 / Fax +81 3 3230 1158
営業時間: 11:00 - 18:00 定休日: 日・月・祝日 (Closed on Sundays, Mondays & Public Holidays)

THE 新版画 渡邊庄三郎の挑戦 展

全 国 巡 回 中
2026年１月31日(土) ～ 2026年３月29日(日) 神戸ファッション美術館
2026年12月５日(土) ～ 2027年１月31日(日) パラミタミュージアム (予定)

高橋弘明「白猫」大正15年 ©S.WATANABE COLOR PRINT CO.

川瀬巴水「三十間掘之暮雪」大正９年
©S.WATANABE COLOR PRINT CO.

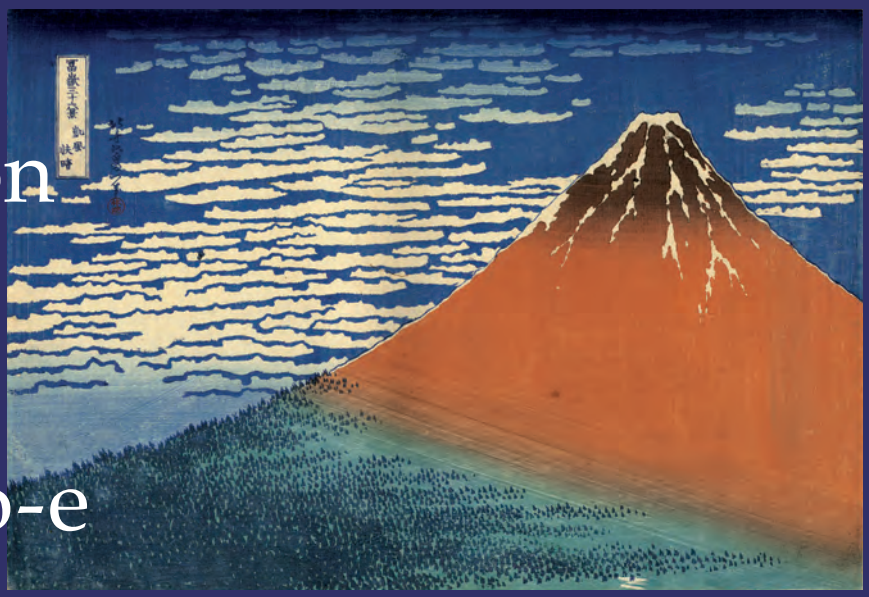
〒104-0061 東京都中央区銀座8-6-19
株式会社渡邊木版美術画舗
S.WATANABE COLOR PRINT CO.
TEL 03 (3571) 4684 https://hangasw.com

Old and Rare Books,
specialty store

Wahon
和本

Maps
古地図

Ukiyo-e
浮世絵



江戸時代の和本、古地図、浮世絵版画専門店

大屋書房

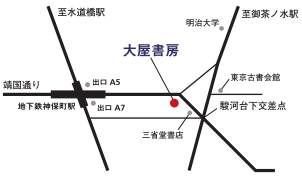
OHYA-SHOBO CO.,LTD. Established 1882.

www.ohya-shobo.com

101-0051
東京都千代田区神田神保町1丁目1番地
1-1 Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

TEL 03-3291-0062 / FAX 03-3295-2334
MAIL ohya@ohya-shobo.com

OPEN 月—土曜 | 10:00～18:00
CLOSE 日曜・祝日（営業の場合もあります。ご連絡下さい）



株式会社 マツミサロン

MATSUMI SALON CO., LTD

〒160-0022
東京都新宿区新宿1-19-10
サンモールクレスト606
TEL：03-3357-6174
FAX：03-3355-0504
E-mail ukiyoe@matsumisalon.co.jp

606 Sunmall Crest 1-19-10
Shinjuku Shinjuku-ku
Tokyo 160-0022 Japan
TEL：81-3-3357-6174
FAX：81-3-3355-0504

古山師政「太夫柳下喫煙の図」部分 紙本著色　45.8×52.3cm

Edo Culture Laboratory Co., Ltd.
株式会社 江戸文物研究所
内村美術店

〒103-0013 中央区日本橋人形町2丁目18-4昭美ビル１階
電話：03-5640-4446 FAX：03-6661-6641
mail：edo.bunbutsu@gmail.com HP：https://www.ukiyoe.co.jp/

第30回　国際浮世絵学会　秋季大会　実行委員会

浅野　秀剛	藤澤　茜	定村　来人	Buckland, Rosina
大久保　純一	渡邉　晃	染谷　美穂	Davis, Julie Nelson
纐纈　くり	石上　阿希	内藤　正人	Kok, Daan
田辺　昌子	岡崎　礼奈	長井　裕子	Marks, Andreas
渡邊　章一郎	木下　京子	西田　亜未	
角田　日出男	小林　ふみ子	山口　桂	

第30回　国際浮世絵学会　秋季大会

International Ukiyo-e Society 30th Fall Conference

2025年11月22日
編集・発行　国際浮世絵学会
〒104-0031　東京都中央区京橋２－12－２　京橋三貴ビル４F
Tel: 03-6271-0824　Fax: 03-6271-0834
International Ukiyo-e Society
2-12-2-4F Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, JAPAN
Tel: +81-3-6271-0824　Fax: +81-3-6271-0834
https://www.ukiyo-e.gr.jp/
印刷・製本　上毛印刷株式会社

The 30th

International Ukiyo-e Society Fall Conference

International Ukiyo-e Society

Saturday, November 22, 2025

at Kanagawa University, HyFlex